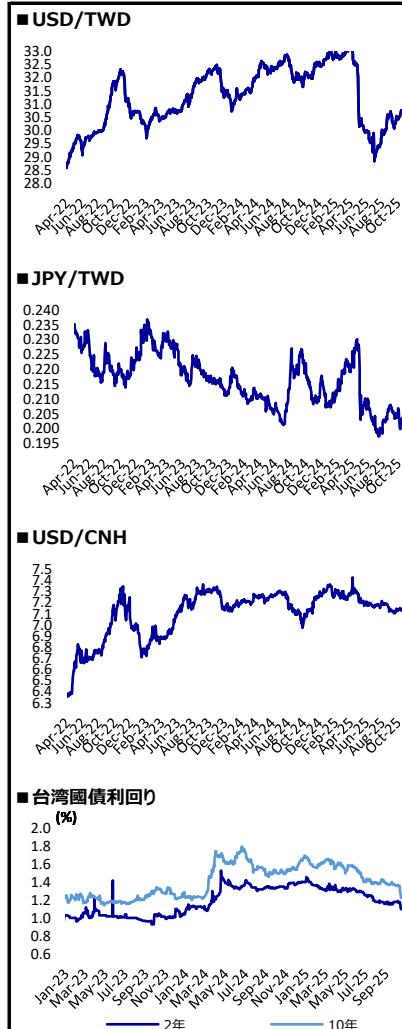


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のUSD/TWDは下落。週初の10月27日、USD/TWDは30.780でスタート。米国CPIが予想を下回り、ドル安が進行。台湾株の上昇と海外資金の流入が新台湾ドル買いを後押しし、終値は30.719。28日、ドル安が続き、一時30.600を割り込む場面もあったが、中央銀行の介入で終値は30.626。29日、台湾株高と外資流入で一時30.532まで下落。その後、輸入業者のドル買いと中央銀行の調整で30.630で引ける。30日、国際的なドル高と外資のドル買いで一時30.700を突破。しかし、輸出業者のドル売りと中央銀行の介入で30.715で終了。31日もドル高が続き、為替市場では外資の小幅な資金流入が見られ、最終的には前週比0.21%ドル安台湾ドル高の30.749でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は140.3億台湾ドル。

■ USD/JPY

先週のUSD/JPYは上昇。週初の10月27日、USD/JPYは152.90でスタート。米中対立懸念の後退で市場のリスク選好が高まり、円安が進行。USD/JPYは153を上回る水準へ。その後、日米首脳会談や金融政策決定を控え、市場は様子見ムードとなり、終値は152.90。28日、日米首脳会談で両国財務大臣が為替の過度な変動に懸念を示し、円買いが強まる。USD/JPYは一時152付近まで下落。さらに米財務省が日本銀行の利上げを擁護するような発言をし、円買いが続き、終値は152.09。29日、米財務長官が日本銀行への政策運営の自主性拡大を提案し、円買いが加速。USD/JPYは一時151付近まで下落。海外時間帯にはFRBが市場予想通り0.25%の利下げを実施。しかし、パウエル議長が12月の追加利下げに慎重な姿勢を示し、米国債利回りが上昇、ドル買いが進みUSD/JPYは153付近まで回復。30日、日本銀行は政策金利の据え置きを決定。12月の利上げについて明確な言及がなく、円安圧力が強まる。USD/JPYは一時154付近まで上昇。加えて、米中首脳会談で関税引き下げや輸出規制解除の合意が市場心理を支え、円安がさらに進行。31日、日本のCPIが予想を上回り利上げ期待が高まる中、財務大臣の為替に関する発言で円買いが強まる場面もあったが、海外時間帯にFRB高官が利下げに慎重な姿勢を示し、ドルが反発。USD/JPYは最終的に154.00で週を終え、前週比1.06%の上昇。

■ USD/TWD 予想レンジ：30.500-31.000

今週のUSD/TWDは底堅く推移する予想。FRBが利下げの道筋に慎重な姿勢を維持したことで米国債利回りが上昇し、ドル高が進行。台湾株式市場の高値で海外投資家による利益確定の売り圧力が強まり、資金が流出傾向となり、台湾ドルは下落圧力を受ける。ただし、中央銀行の市場介入により為替の変動幅は抑えられ、台湾ドルの下落幅も限定的となる見通し。

■ USD/JPY 予想レンジ：152.00-156.00

今週のUSD/JPYは底堅く推移する予想。米国の高金利やFRBの利下げに慎重な姿勢からドル高・円安が続きやすいと予想されます。ただし、日本の利上げ観測や政府の円安警戒発言が円を支え、当面は大きな方向感なく小幅な値動きが続く予想。

今週の予想

11/3 (MON)	東京市場休場
11/4 (TUE)	米9月貿易収支
11/5 (WED)	米10月ADP雇用統計、米10月ISM非製造業景況指数、日銀金融政策決定会議事録
11/6 (THU)	台湾10月CPI
11/7 (FRI)	中国10月貿易収支、米10月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank